

けんぼんちゃくしよくこうみょうほんぞん
絹本着色光明本尊

種 別 県指定文化財 絵画
指定年月日 昭和45年11月25日
所 在 地 泉町（個人蔵）

光明本尊とは、中央に「南無不可思議光如来」の文字（名号本尊）と、それを中心に発せられる光の筋（光明）が描かれた画像である。初期の真宗教団が布教活動の手段として作った、浄土真宗独特のものである。

所蔵する春木家は白山麓十八か村（幕府領）のひとつである新保村に所在し、代々西谷五か村の庄屋役を務め、また浄土真宗の道場主でもあった家である。この光明本尊は、道場の中心として春木家が所有し、春木家の祖・性善が親鸞聖人から授けられたものと伝えられる。戦前までは、旧盆の三日間にこの光明本尊の開帳が行われ、近隣の村々のほか大日（新又）峠越えをしてきた勝山市の人々も参詣に訪れたという。

この光明本尊は縦162.2センチメートル、横107センチメートルの大型品である。中央に大きく「南無不可思議光如来」、左右に「歸命盡十方无碍光如来」、「南無阿弥陀仏」と、それぞれ金箔で名号を書いている。また中央の名号の両側には中国、インド、日本の高僧の姿を描いている。

現存するこの様式の光明本尊は少なく、県内では本件と、白山市松任の本誓寺、白山市白峰の林西寺の3件のみである。また本件の裏書きの長禄元年（1457）との記載から、県内では唯一の年代が明確な光明本尊であり、初期真宗教団の布教活動を知る上で貴重なものである。

